



## 孤高の中に秘められた強さ

朝から、交通指導をしていると、背後から落ち葉のカサカサっという乾いた音が聞こえてきました。そちらの方に目を向けると、6年生の子供が、落ち葉を集めてくれていました。たった一人で落ち葉を集めてくれるその献身的な姿からは、その子の内に秘められた強さを感じることができました。一人でも学校のために動く！そのしなやかな強さが輝いて見えました。私が「ありがとうございます。」と声をかけると、その子は満面の笑顔を返してくれました。しばらく時間が経つと、運動場のいたる所に子供たちが登場し、めいめい草取りや落ち葉掃きをしていました。そしてたくさんの先生たちも運動場で作業に汗を流してくれました。そこには、師弟同行のたくさんの姿があり、朝から清々しい気持ちになりました。



## 学校ホームページ

昨日7日(水)は、校長会があり、研修を受けました。休み時間に、他校の校長先生から「帯西は、なんであんなにホームページにアクセスがあるんですか？」と尋ねられました。私は何のことかわからず、「どういうことですか？」と聞くと、その校長先生は、どうしたら学校ホームページが活性化できるか悩まれていたそうで、調べてみると帯西のアクセス数は熊本市でも突出しているとのことでした。私が「毎日、学校だよりを配信しているからですかね。」と答えると「毎日!？」という会話で終わってしまいました(^;学校ホームページにアクセスしていただいている保護者・地域の方々の学校への関心と期待されていることに感謝した日になりました。



## ●ひこうきぐも✈ vol.22

バッグを盗まれた後は悲惨でした。店の対応も冷たいもので、宿に戻り、大きなバッグを担いで、警察に行きました。しかし言葉が全然通じず、次に中央警察署に行きました。警察では事務的な手続きで書類を書かされ、はんこをもらって、はいさよならです。それもそのはず、次々と被害者が入って来ているのです。その被害者の中の一人である、日本人の女の子など小奇麗な格好で、ヒールの高い靴を履いていたものですから、簡単に狙われたようです。「そうだった、ローマではスリには十分に気をつけなければならなかった。」と改めて思い知らされました。

とにかく、その夜は寝台でスイスに行こうと思っていましたが、またローマに泊まる事になってしまいました。夜遅くこの危険地帯のローマで宿を探すのには勇気がいります。必死の思いで、空いている宿を探しますが、どの宿も一杯でなかなか空いていませんでした。例え空いていたとしても、当時の貧乏旅行の私には高嶺の花の部屋だったのです。

ある一軒のホテルの前に来ました。ベルを押すと中からそのホテルのオーナーが出て来て、「あなた、日本人？」と日本語で尋ねられるのです。その理由はすぐに分かりました。そのホテルのオーナーの奥さんは、日本人で博多の人だったのです。そこで、すぐに私を泊めてくれました。幸運にも？普通の客室は空き室が無く、スイートルームに泊まることができました。

事情を話すと、格安で(殆どタダ同然)泊めてくれ、温かいスープも部屋に運んでくれました。あのときのスープの味は格別で、今でも忘れることはありません。また今回の旅の中で一番広くて綺麗な部屋であったことは言うまでもありません。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。バックナンバーは昨年度からの累積です。